

# 1 - 1 高齢者の利用に配慮した共同住宅の仕様・設備

- ・共同住宅の仕様・設備は、時期を追うごとに高齢者等が利用しやすいものへと変更されてきた。
- ・既存共同住宅ストックでは、各部位で高齢者等の利用に配慮されていないものが見られる。

## 浴槽

縁の高さが高い浴槽より、縁の高さが低い浴槽が利用されるようになってきている。



(昭和40年代に公団住宅で採用していた浴槽)



## 便器

和式便器より、腰掛け式の便器が利用されるようになってきている。



(昭和30年代前半に公団住宅で採用していた便器)



## 公営住宅建設基準の改正(H3年度)

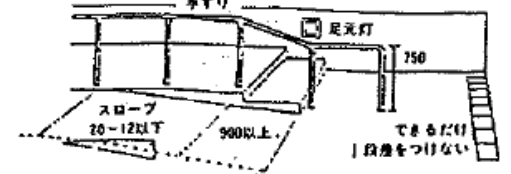
公共賃貸住宅では、平成3年度から床の段差の解消等が標準化された

- 住戸内の床の段差の解消
- 浴室・便所への手すりの設置(下地の補強)
- 共用階段及び住戸内階段への手すりの設置
- 屋外通行部分において、スロープ設置と階段等への手すりの設置

・敷居等のつまづき易い段差の解消の例



・屋外通行部分のスロープ化の例



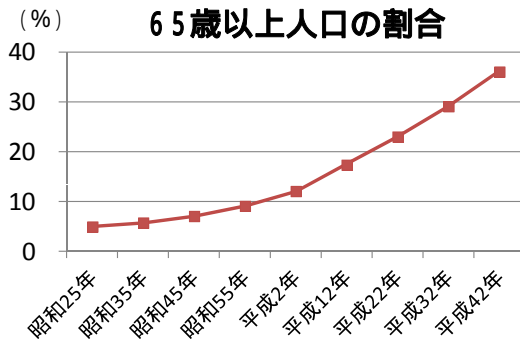
## 住宅のバリアフリー化の現状

|             |  |      | 全体    | うち高齢者が居住する住宅 | (参考) 住生活基本計画での目標 |
|-------------|--|------|-------|--------------|------------------|
| 住戸内<br>専用部分 | 2か所以上の手すりの設置又は段差のない床に該当                | 総数   | 30.0% | 36.9%        | 75% (H32)        |
|             |  | 共同住宅 | 22.9% | 35.4%        |                  |
| 共用部分        | 2か所以上の手すりの設置、段差のない床及び車椅子通行可能な廊下幅の全てに対応 | 総数   | 7.8%  | 9.5%         | 25% (H32)        |
|             |  | 共同住宅 | 4.8%  | 12.1%        |                  |
| 共用部分        | 道路から玄関まで車椅子で通行可                        | 共同住宅 | 15.7% | 24.1%        | 28% (H32)        |

(出典) 平成20年住宅・土地統計調査(特別集計)

## 高齢者の増加

65歳以上人口の割合は年々増加している。



出典「人口統計資料集」国立社会保障・人口問題研究所